仙台市ボランティアセンター広報誌
ぼらせん
BORASEN
vol.25
2025 Spring

特集 東北文化学園大学 災害時のボランティア

災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加した学生の皆さん

災害ボランティアセンター設置運営訓練を通して

東日本大震災での災害時の教訓をもとに、運営スタッフのスキル向上のため、災害ボランティアセンターの設置運営について学ぶことと、関係機関との連携を図ろう。そんな目的から東北文化学園大学の学生たちが、青葉区災害ボランティアセンター設置運営訓練（主催：仙台市社会福祉協議会青葉区事務所、仙台市青葉区ボランティアセンター）に参加し、災害ボランティアセンターの役割や機能について理解を深めました。

訓練に向けてのミーティングの様子

Contents

特集

● 東北文化学園大学 災害時のボランティア活動 …… 1-3
● 企業の社会貢献 …… 4-5
・アサヒユウアス株式会社
● 子どもの居場所づくり支援 …… 6
・子どもサロンハリーレストラン
● ボランティアセンターからのお知らせ …… 7
● イベントインフォメーション …… 8

特集

学生たちの
センター設置訓練

万が一の災害に備えて

東北文化学園大学

災害時における ボランティアの役割

災害ボランティアセンター設置運営訓練の様子

事前講習の様子

学内での結果報告会

ー 災害ボランティアセンターの重要性

東北文化学園大学現代社会学部の豊田ゼミでは、沿岸部の被災地の視察や、被災された方々へのインタビューなどを通して、東日本大震災に対する理解を深めてきました。未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、被災者支援の重要性とボランティア活動の有効性が改めて認識され、災害ボランティアセンターが果たす役割は必要不可欠なものとなりました。

令和6年10月に仙台市青葉体育館で開催された青葉区災害ボランティアセンター設置運営訓練には、豊田ゼミを中心に21名の学生が参加しました。この訓練に参加するにあたっては、仙台市災害ボランティアセンター運営サポーター養成講座(主催:仙台市社会福祉協議会)を事前に受講し、災害ボランティアセンターに関する基本知識を学びました。

実際の訓練に参加した学生からは「災害ボランティアセンターという存在そのものを初めて知ることができた」「五人一組でチームをつくり、お互いに連携することの大切さを学んだ」「災害はいつ発生するかわからないので、日頃からの訓練が重要だと感じた」などといった声が聞かれました。

豊田ゼミでは、名取市閖上などの沿岸部で被災された方の体験談を聞いたり、被災地の子どもたちとの交流学習に足を運んだり、これまでも様々な活動を行っています。「実際に被災地へ足を運ぶと、自分の視野がぐんと広がって、多くのことを学べる」という声に代表されるように、現地で得られた情報は学生たちの貴重な体験へとつながっています。

「能登半島地震の報道からも日頃からの訓練がいかに大切かということを思い知らされた」と声を揃える東北文化学園大学の皆さん。災害時のボランティアをひとつの大きなテーマとして、ボランティアに対するより一層の理解を深めています。

大学生の声 VOICE

だいがくせい

災害ボランティアセンター
設置運営訓練に
参加した感想を聞いてみました!

VOICE 01

現代社会学部
現代社会学科3年　宇野山　祐哉さん

私がこの訓練に参加しようと思った理由は、ボランティア活動が他者に役立つだけでなく、自分の成長にもつながると考えたからです。緊急時に必要なスキルを身につけたり、状況への柔軟な対処力を培えると期待していました。特に印象的だったのは、災害発生を想定したシミュレーションでの経験です。センターが迅速に機能するための準備が徹底され、各班が一丸となって取り組む様子は印象深いものでした。この訓練を通じて、ただ指示に従うのではなく、自ら積極的に行動することで、チーム全体に良い影響を与えられることを学ぶ貴重な機会となりました。

VOICE 02

現代社会学部
現代社会学科3年　鹿野　鉱平さん

ゼミ活動の一環で災害支援を体験しました。教室で学ぶ災害の影響や支援の重要性を、実践的に学べる絶好の機会となりました。災害時の活動として、ボランティア会場の設営、登録、マッチング、活動の説明など、一連の流れを経験しました。運営側では柔軟な対応の重要性を実感し、ボランティア参加者への丁寧な説明や対応の大切さも学びました。この経験を通じて、災害支援の現場をより深く理解し、自分自身の成長を感じることができました。今後は災害支援に必要な判断力や柔軟性を磨き、地域に貢献できる活動に取り組みたいです。

VOICE 03

現代社会学部
現代社会学科3年　佐々木　太陽さん

地域のつながり、地域住民の関わりについて学び、災害発生時などの非常事態において求められる冷静な対応力や迅速な連携の在り方について理解を深めたいと考え、ボランティア活動に参加しました。実際のボランティア活動を通して、支援の拠点の設置・運営、支援物資の管理、チーム間の役割分担や情報共有など、実践的な支援の流れやスキルについて学ぶことができました。自分を含めたチームの行動ひとつひとつが、誰かの安全や安心、命を守ることにつながるのだという責任を実感しました。これらの学びを今後の学習や生活に活かし、人々の安全や安心を考える視点を強く持って取り組んでいきたいと思います。

VOICE 04

現代社会学部
現代社会学科3年　佐藤　未菜さん

今回は、ゼミ活動の一環としてボランティアに参加したのですが、私自身、近年増加している地震や台風などの災害や発災後に備え、災害ボランティアセンター設置運営訓練のような訓練に参加したいと考えていました。主に演習による訓練に取り組みましたが、その取り組みを通じて、災害発生時に適切に対応できる体制を整えることで、スムーズな運営ができ被災者に安心を届けることにつながると知りました。このような訓練は必要だと思いました。今後も、このような機会があれば積極的に参加し、災害時に役立つ人材になりたいと考えています。

VOICE 05

現代社会学部
現代社会学科3年　庄司　茉央さん

「災害ボランティアセンター設置運営訓練」という言葉は初めて知りました。ゼミでの参加がきっかけで、混乱した被災地でボランティア同士がどのように連携し、地域のニーズに応じた支援を得るための情報収集方法について理解を深めたいと考えました。災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加して、特に印象に残ったのは、災害時におけるボランティアの重要性と、円滑な連携がいかに重要かということです。実際に災害が発生した場合を想定したシミュレーションでは、ボランティアセンターが迅速に機能するための準備が徹底されており、各班が一体となり取り組む姿勢が印象的でした。

VOICE 06

現代社会学部
現代社会学科3年　勝　柚翔さん

大学で福祉を学んだ経験から、災害時に地域の一員として支援活動を行うための知識やスキルを身につけたいと思い、災害ボランティアセンター設置運営訓練に参加しました。特に福祉の視点から、被災者が抱える多様な課題にどう対応できるかを実践的に学ぶ機会を得たいと考えました。実際の活動を通じて、情報収集や発信の重要性、多職種や地域住民との円滑な連携の必要性を実感しました。訓練では、各班が協力してセンター設置の準備を進める流れを体験し、災害時の混乱を防ぐための具体的な手法を学ぶことができました。今後は、防災や災害支援に関する知識をさらに深めるとともに、日常生活の中で地域とのつながりを強化し、災害への備えも行いたいと考えています。

VOICE 07

現代社会学部
現代社会学科3年　横澤　莉子さん

参加のきっかけは、ゼミでの活動での災害ボランティア設置運営訓練の学びから災害時のボランティアの重要性を感じて、実際にどのように行われているか興味を感じたからです。実際に活動してみて、訓練の重要性を感じました。どのように配置をすればボランティアに訪れた人が分かりやすいか、訓練の場でレイアウトを試行錯誤されていることを知りました。事前に学んでいても実際に行う難しさを感じました。訓練を通じて災害が起こったときは、迅速な対応でボランティアセンターの設置を行うことで、ボランティアの受け入れとマッチングができると実感しました。

地域貢献

アサヒグループ（アサヒユウアス株式会社）

地域の防災について考える

▲ノキシタ防災教室

▲泉館山高校防災講座で指導する金沢さん

▲仙台防災未来フォーラムワークショップ

防災というと、万が一に備えて水や食料などの備蓄品が用意できているかどうかを思い浮かべる方が多いかも知れませんが、「その前に命を守ることを第一に考えてほしい」と語るのは、アサヒグループ（アサヒユウアス）の金沢竜助さんです。東日本大震災がきっかけで、防災のことをもっと体系的に知りたいと考え、防災士の資格を取ったという金沢さん。現在はアサヒグループ（アサヒユウアス）ローカルSDGs専任リーダーとして、仙台防災枠組を推進する仙台市と連携しながら、企業や学校向けの防災セミナーなど、様々な活動を行っています。

「何よりも重要なのは、まず本人が無事でいることです。例えば企業のBCPを実行する場合、従業員の命が守られ、全員無事でいることが前提になります。どのようにしたら命を守れるのか、皆さんに気づいてもらうための手助けを行っていくこと、それが防災セミナーの目的です」。

ノキシタ防災教室や仙台防災未来フォーラムでのワークショップ、高校での防災講座など、実際にセミナーに参加した皆さんからは「やっぱり命を守る行動が大切なんですね」「自分の命は自分で守るしかないことに気づかされました」という声がよく聞かれるそうです。「命を守る大切さをもっと知ってほしい」と金沢さんは語ります。

2030年までの国際的な防災の取り組み指針として、世界各国から注目されている仙台防災枠組。仙台から世界へ、ひとりでも多くの市民に自分の命を守る行動を知ってもらうことが、金沢さんたちの願いです。

尚、アサヒグループでは、災害発生時に管理者の操作によって予備バッテリーを起動させ、自動販売機内の飲料を無償で提供する災害対応型自動販売機の設置も進めています。

＼大切なのは自分の命を守ること／

▲仙台防災未来フォーラムワークショップ

▲泉館山高校防災講座

▲ノキシタ防災教室

▲仙台市社会福祉協議会CSRセミナー

▲災害対応型自動販売機

使い捨てから「繰り返し使う」へ

アサヒユウアスでは、これまで焼却処分されていた定禅寺通のケヤキの剪定枝と、仙台市の各家庭から収集されたプラスチック資源を混合した定禅寺通発オリジナルタンブラー「JSCタンブラー」の開発にも協力しています。森のタンブラーを利用したお絵描き教室は大人気です。

▲定禅寺通発オリジナルタンブラー「JSCタンブラー」

▲オリジナルタンブラーをつくろう!!

子どもの居場所づくり

～ もっと食を身近に感じてほしいから ～

子どもサロンハリーレストラン（仙台市太白区）

チームワークは抜群！

愛情という栄養がたっぷり！

みんなで楽しく食事中！

おいしいお弁当の出来上がり！

ー 地域とのつながりを大切に

子どもサロンハリーレストランの代表を務める小岩孝子さんは、これまで児童館の運営に携わり、夕飯を知らない子どもたちがいることを知りました。これを地域の課題として考え、普通の食卓で並んでいるようなご飯を食べてもらい、食の大切さを知ってもらおう。そんな想いから始めたのが、子どもサロンハリーレストランです。

子どもサロンハリーレストランの特徴は、会食・配食・イベントを抱き合わせながら、子どもたちだけでなく、地域の幅広い年代の皆さんとつながりが深いことです。地域からの寄附などによって支えられており、多いときは100人以上の皆さんが集まります。

小岩さんにお話しを伺ったところ、地域からは「親が仕事で不在になりがちな土曜日にランチを提供してもらえるのはありがたい」「家族みんなでイベントを楽しみながらお弁当をいただけるので、とてもいい思い出になる」などの声が寄せられているそうです。「ご家族さんが全員で足を運んでくれたときや、いつも楽しみにしているとお子さんから耳打ちされたときは嬉しいですね」と小岩さん。子どもたちはもちろん、地域でひとり暮らしをしている高齢者の皆さんとも楽しいひとときを過ごしながら、子ども食堂のさらなる広がりを目指していくことが目標です。

INFORMATION

「子どもサロンハリーレストラン」に関するお問合せは

TEL 022-241-0858 まで

仙台市ボランティアセンターからのお知らせ

受講企業・団体を募集しています！

仙台市障害理解サポーター養成研修

2024年4月1日から民間事業者による「障害がある方への合理的配慮の提供」が法的にも義務化されました。不当な差別的取り扱いと合理的配慮は、個々の状況に応じて個別に建設的対話による相互理解を通じ、代替措置の選択も含め柔軟に対応していくことが重要です。

本会では、障害のある当事者の方が講師となり、仙台市内の各企業、団体へ出向いて障害について理解し、障害のある方にとって良き理解者である「障害理解サポーター」となってもらうことを目的とした研修を行っております。

「障害について当事者から話を聞いてみたい」や「障害のある方と関わる機会があるため必要な配慮を知りたい」等、障害に対する理解を深めたいと考えている企業・団体の方はぜひお申込みください。

研修の特徴

1. **身体障害、精神障害、発達障害などの障害のある方**が講師を務めます
2. 日時・場所・対象者は**ご希望に合わせて実施**します（お申込は5名以上からお願いいたします。）
3. 受講料・講師派遣料・テキスト代等の**費用は一切不要**

令和6年度も多くの方々に受講いただきました！

お申込はこちらから

仙台市障害理解サポーター養成研修ホームページ
https://www.shakyo-sendai.or.jp/action/learning/supporter/

令和6年度に受講いただいた企業・団体一覧

（令和7年2月27日現在・順不同）

企　業

- 株式会社七十七銀行
- セルバテナント会
- ララガーデン長町
- 株式会社ディライト・カンパニー
- 株式会社オーランド・オプチカル
- The Gift.
- 宮城交通株式会社
- パーソルプロセス&テクノロジー株式会社
- TOPPANエッジ株式会社
- パーソルテンプスタッフカメイ株式会社
- 一般社団法人日本産業カウンセラー協会
- 株式会社マグネッツ

行　政

- 仙台高等裁判所
- 矯正研修所仙台支所
- 人事院東北事務局
- 西多賀地区社会福祉協議会
- 仙台市法務局
- 矯正研修所仙台支所
- 仙台家庭裁判所

学　校

- 仙台大学附属明成高等学校 福祉未来創志科
- 尚絅学院高等学校 総合進学コース
- 仙台医師会看護専門学校 同窓会
- 東北外語観光専門学校
- 仙台医療福祉専門学校
- 東北学院大学 学生健康支援課

地域・団体等

- 北六中江地域ボランティアクラブ
- 郡山地区民生委員児童委員協議会
- 南吉成地域包括支援センター
- 連坊地区民生委員児童委員協議会
- 大沢広陵地域包括支援センター

※実施内容に関しましては仙台市社協ホームページをご覧ください

イベントインフォメーション

宮城県ボランティア活動総合補償制度

ボランティア保険とは日本国内のボランティア活動中のケガや傷害、物損などの損害を補償する保険です。もしもの事故に備えてボランティア保険に加入することで、安心して活動に取組むことができます。

加入窓口
市・区ボランティアセンター、宮城支部事務所

令和6年度に加入したボランティア保険は**令和7年3月31日に補償期間が終了**します。

令和7年度の申込みは**令和7年3月17日から受付可能です。**

加入手続きに必要なもの

●ボランティア保険加入申込票
（窓口にて配布しています）

※加入者全員の氏名・住所・電話番号の情報が必要です。
※既存の名簿に上記内容がすべて記載されている場合は、その名簿を2部ご提出ください。

●保険料

Aプラン	… 300円
Bプラン	… 500円
天災プラン	… 670円 等

※お釣りの無いようにご準備ください。

●詳しくは
仙台市社協
ホームページを
ご覧ください

https://www.shakyo-sendai.or.jp/action/page-50626/insurance/

2025夏のボランティア体験会

夏休み期間に市内の福祉施設、ボランティア・市民活動団体等でボランティア体験ができます。「ボランティア活動が初めてで不安」という方や「ボランティア活動をどうやって始めればいいかわからない」という方はぜひこの機会にボランティアデビューをしてみませんか?

参加者募集は5月上旬を予定しています。

ちらし設置場所
❶仙台市ボランティアセンター・各区ボランティアセンター・青葉区宮城支部事務所
❷仙台市内市民センター・中学校・高等学校・大学・専門学校　等

青葉区ボランティアセンター
仙台市青葉区二日町4-3 仙台市役所二日町分庁舎1階　TEL022-265-5260

若林区ボランティアセンター
仙台市若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター別棟1階　TEL 022-282-7971

青葉区宮城支部事務所
仙台市青葉区下愛子字観音堂27-1(仙台市宮城社会福祉センター内)　TEL022-392-7868

太白区ボランティアセンター
仙台市太白区長町南3-1-30南部アーチル1階　TEL 022-248-8188

宮城野区ボランティアセンター
仙台市宮城野区原町3-5-20 メゾン坂下1階　TEL 022-256-3650

泉区ボランティアセンター
仙台市泉区七北田字道48-12(泉社会福祉センター内)　TEL 022-372-2603

▼ 掲載記事に関するお問い合わせは仙台市ボランティアセンターまで ▼

社会福祉法人
仙台市社会福祉協議会　仙台市ボランティアセンター

〒980-0011
仙台市青葉区上杉1丁目6-10 EARTH BLUE 仙台勾当台ビル6階
TEL 022-262-7294　FAX 022-216-0140

▼ホームページはこちら
https://www.shakyo-sendai.or.jp/
仙台市ボランティアセンター　検索